

---

# パレードと繋がる者

SHUNKE

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

パレードと繋がる者

### 【Nコード】

N93910

### 【作者名】

SHUNKE

### 【あらすじ】

人は生まれ、そして死にゆく。僕の死生観です。

僕が、それに気がついたのは、まずまず最近のことである。いつも、現実の裏側に張り付いて息を潜めていたのだと思う。それは、影であり、切り離すことは出来ないのだ。もう一度言おう。それは、僕のいつも側にいたのだ。

僕は、それに長い間気がつかなかった。まるで、愚かなことだと思ふ。いつも、影のように付きまとっていたそれに、三十年以上も気づかなかつたのだから。そういうことは、若さの悪戯なのだろうか。まるで、街で出会った女と一夜を過ごし、名前や出身や趣味や将来の夢なんかをあらかた聞いておきながら、顔を思い出せないってことに似ている。

僕は知らなかつたのだ。いや、正確には、意味も大体は理解はできていたはずだ。一般論として知らない人間はいないのだから。

僕は確実に蝕まれている。僕はそのパレードに繋がる一片の肉塊なのだ。前の人間の肩に手を置き、後ろの人間から肩に手を置かれ、僕はこのいつ終わるか分からない遅々としたパレードに紛れ込んでしまった人形なのだ。そこに、哲学やら芸術やらなんか存在しない。有無を言わせない無言の行進だ。始まりも終わりもない。僕はやって来て、やって行く。言葉は失われ、思考は止まる。僕は、最後にいつ考えたろう：自分の言葉でしつかりと考えていたのは、いつのことだったのだろうか。それとも、始めから考えていたのではないのかも知れない。考えていたフリを続けていたのかもしれない。

そういうと、僕はいったい誰なのだろうか。アイデンティティさえ危うい。否定を続けて削り取られ残った姿が自分自身なのだとすると、僕の存在はマイナス値を表している窮屈な存在だ。

パレードは続く。砂漠と言う抽象表現が適切だろう。見渡す限りの無限砂漠を、音もなく、光もなく、僕らは進んでいく。時間だけが確かなことだ。磨り減った足が折れ、膝をついた者から、パレー

ドから外されて置いていかれる。置いて行かれても、長く苦しむこともない。それは、あつという間にその外された者を飲み込むからだ。飲み込まれた者は、その瞬間、短い夢を見る。とてもリァリスティックな夢を見る。そして、こう言うかもしれない。

「いい人生だった」と。

無言で歩き続けただけのことを人はそう言うのだ。まるで愚かな愚かな出来事であり、事実なのだ。

僕もそれに繋がる者だし、抗えない者だ。でも、僕ならこう言うかもしれない。

「馬鹿馬鹿しい」と。

僕は、怒っている。激しく怒っている。朝起きることを許そう。食事を許そう。食事の果てに太りすぎたこの体を許そう。労働を許そう。恋愛を許そう。恋愛の果てに置き去りにされたことを許そう。でも、馬鹿馬鹿しいではないか。こんな歩き続けるだけのパレードなんて。誰も見ていやしないし、誰も楽しませない。余興もないし、対価もない。奪われるだけのパレードなんて。

僕は気づいたのだ。ここには何もありませんのだと。始めから何もなかったのだ。風も光もない唯の無世界なのだ。そこで、とてもドラマティックな夢を見ているのだ。疲労も嘘だし、恋も嘘だ。記号化された無機的世界なのだ。少なくとも、僕にはそんな風にか見えない。

誰かは言うだろう。希望の話を。深夜のコンビニに売っているような手軽さで。僕はそれを買集めて、闇市場で売りさばく。そして、その金でこのパレードを続ける。何故なら、この先の話を聞きたいから。一見そのように見えるというのが定石なのだ。という希望。僕も成り下がってしまったのだろう。このパレードの馬鹿馬鹿しさに。

夜は暗い。それだけだ。暗さは夢を奪う。そして、見えない塵を降り積もらせる。だから、昨日、見えていた道が見えなくなってしまう。だから、迷うのだろうか。迷っているのだろうか。

朝は開ける。ずっと遠くで、大きな音を立てて。まるで、花火のよう。そして、僕はまたそのパレードを見つけてしまうのだ。目だけの生き物のように。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9391o/>

---

パレードと繋がる者

2010年11月15日22時40分発行